

「野生鳥獣との共存に向けた生息環境等整備」

連絡会議 議事概要

日時：平成23年3月2日（水）

13時15分～15時45分

場所：四国森林管理局 別館会議室

注：ニホンジカをシカとする。

1 開会 中島指導普及課長

(1)出席者の紹介

(欠席1名：那賀町)

(2)配付資料の確認

2 計画部長挨拶 斎藤部長

3 議事 司会：中島指導普及課長

- (1) 剣山、三嶺地域にかかる関係機関のシカ害対策等について
(平成22年度の実施概要、23年度の計画案)

ア 四国森林管理局

資料1に基づき鹿熊企画官から説明

配付資料「ニホンジカ生息密度調査とりまとめ結果」について
鹿熊企画官から説明

イ 環境省中国四国地方環境事務所野生生物課

資料2に基づき、久保課長から説明

うち調査結果について受託者（(特)四国自然史科学研究センター）から説明

ウ 徳島県自然環境課

資料3に基づき、宇野課長補佐から説明

エ 高知県鳥獣対策課

平成22年度の取組について説明

県内91地点において生息数モニタリング調査を実施。19

年度調査結果に比べて、生息密度2.4倍。

資料4に基づき、岡村課長から説明

オ 香美市（林政課）

資料5に基づき、高橋主事から説明

カ 高知大学理学部

資料6に基づき、石川教授から説明

キ 「三嶺周辺における個体数調整事業の成果について」

資料7に基づき、坂本副代表から説明

（2）意見交換 公表版は氏名なし

* 昨年徳島県で三嶺山頂付近に高知県側も含み防護ネット柵を設置したことに感謝。併せて要望等を聞いていただき感謝。

* 国指定剣山山系鳥獣保護区内で実施される個体数調整捕獲については、狩猟者登録は不要ではないか。

* 特定鳥獣保護管理計画に基づく個体数調整の場合は、狩猟者登録が不要なのか、環境事務所、県に確認したい。

* 国指定剣山山系鳥獣保護区内で実施される個体数調整に従事するのに狩猟者登録は必要ないと考える。また、高知県の人が徳島県で個体数調整に従事するには、徳島県の特定鳥獣保護管理計画に基づく個体数調整でなければならない。当該鳥獣保護区の場合は、中国四国地方環境事務所及び徳島県との調整が必要となる。鳥獣保護区外における有害駆除であれば、隣接する県及び市町との調整が必要と考える。

： 生息数が多く、被害が大きいのであれば、保護区を3年間から5年間限定して指定を解除し、狩猟をさせてはどうか。

また、ハンターも人数が減少しているので、県で選抜隊を編成して県内各地で活動させてはどうか。

： 当該鳥獣保護区については、希少なツキノワグマ等も生息しており、今のところ鳥獣保護区の指定解除については考えていないが、環境省自らもシカの個体数調整に取り組んでおり、自治体

と連携してシカの個体数管理に努めていきたい。

： 個体数調整の実施区域について、現在の区域は標高が高い尾根部と周辺樹林帯が除かれているが、実際はこれらの区域の生息数が多いと考えられ、これら区域を捕獲区域に組み入れることはできないのか。

： 今年度の捕獲区域については、地形、積雪状況、道路状況等による検討のほか冬期の登山者にも配慮し、区域や捕獲日を設定したところ。今回捕獲区域外にシカの生息数が多いとの分析結果も示されたことから、来年度の捕獲検討にあたって参考にしたい。

： 基本的には、野生鳥獣と人間の生活、経済活動などとの共存を図ることが本事業の目的であり、動物愛護の立場の人たちにも説明可能なように、シカ等野生鳥獣の生息状況と被害との関連の現状把握から、データに基づく被害が許容できる適正な生息密度を推定し、適正密度にするために個体数調整などに取りくむことが重要。外国でも適正生息密度を定めて、人間が個体数を調整している。

： 地質的な観点からの植生を考えても、生態系バランスが崩れている現状なので、植生回復などについても、関係者が知恵を出し合って回復を図るべき。

： シカの天敵はオオカミであったが、絶滅させてしまったので、人間がオオカミの代わりをする必要がある。

局のとりまとめ図では、愛媛県の高縄半島周辺などの生息データがないが、平成21年度は今治市189頭、松山市63頭の捕獲実績がある。愛媛県が今年度全県的に生息調査を実施している。

： 広範囲の区域での生息密度調査の継続とその結果のとりまとめによる全体的な生息状況の把握は重要。高知県が実施した生息密度調査でも県の東部と西部で生息密度が高いほか、中央部でも高くなりつつある。生息密度を四国全域で10頭以下の密度にするためには人間による捕獲が必要。

さらには生息状況や捕獲、捕獲結果の分析などについて様々な

立場の関係者が議論するこのような会議の継続が必要。手続きなど行政的な内容や生息調査など技術的な事項まで特定のエリアについて幅広く議論できて有意義。

： この会合は三嶺・剣山地区が対象エリアなので、徳島県、高知県の2県だけの参加であるが、やはり愛媛、香川も含む四国全体の観点でのシカの生息状況を把握する必要。たとえば4県で共通で持っている5キロメッシュ単位での目撃情報や捕獲頭数などの出猟カレンダーの記録を持ち寄れば四国全体の現状を把握することが可能。

四国の他地域に関しては、石鎚山の動向に危機感。周辺区域では生息数が増えている印象。四国全域について情報交換、対策を検討する会合が必要。

： 事務局（指導普及課）

局の生息調査のとりまとめのマップを見ても、四国のシカの分布は東部、西部にいくつかの個体群があると考えられるが、県境をまたいで分布している個体群もあり、さらにはこれまで生息が確認されていない四国中央部にも生息域の拡大の兆候が見られる。このことからシカについては四国全体の観点で生息状況の把握、対策を取るべきであろうと考えられるので、この連絡会議とは別途に徳島、高知に愛媛、香川も含めた4県と環境事務所など関係者で会合を立ち上げたいと考えているので、詳細については後日改めて連絡するのでよろしくお願ひしたい。

： 4県連携施策についても、例えば提案のあった出猟カレンダーの分析など連携の効果が発揮されるような事業とすべき。

： 四国全体での対策が功を奏し、石鎚山が三嶺のようにならないよう期待。

： 効果的な対策のためには、各個体集団の大きさを念頭に置いて調査、適正密度の設定、対策を検討すべき。

： 高知県の3万頭捕獲目標については、捕獲個体の適正処理を徹底して欲しい。

： 一部は食肉流通にも回すが、残りは埋設など適正処理する。

(3) その他

別途の4県の会合の設定については後日改めて連絡。

委嘱期間終了。来年度は改めて依頼。

4 閉会 中島課長